薬局通信
はあもにぃ
お薬のことなら　https://shizuken.com/
No.357
2025 年
9 月号

（有）静岡健康企画　ことぶき薬局 TEL055(977)6024　　たまち薬局 TEL054(251)1678
ひまわり薬局 TEL053(463)4312　　みかん薬局 TEL053(584)2230　いちご薬局 TEL055(946)6430

これでいいの？医薬品の保険はずし

2025 年６月 11 日、自民党、公明党、日本維新の会は、風邪薬や胃腸薬など市販薬と効能の似た医療用の医薬品、いわゆる「ＯＴＣ類似薬」を医療保険の対象から外して全額自己負担とするなど、2026 年度から公的医療の保険適用を見直す方針で合意しました。近く政府が閣議決定する経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）に反映される見通しです。

ＯＴＣ類似薬とは？

薬には、医師の診察をうけて処方箋をもらい、保険薬局で調剤される「医療用医薬品」と、処方箋なしでドラッグストア等でだれでも購入できる「OTC 医薬品」があります。

処方箋で出してもらうことも、ドラッグストア等で購入することもできる医療用医薬品を「ＯＴＣ類似薬」といいます。

どんな薬が保険はずしされるの？

２０２５年４月１７日に維新の会によってリストアップされたのは２８成分であり、これらは「医療用医薬品とＯＴＣ医薬品の成分・１日最大用量が同じ」という基準で選ばれたものです。

２８成分をあわせた薬剤費の合計は１５００億円超ですが、この基準をより拡大していくことによって、最大１兆円の医療費削減を目指しています。

下は保険外しの候補のリストの一例です。これらがすべて保険適応でなくなると…

薬効 成分名	医療用医薬品名称 ３割負担でのおよその価格	OTC 販売名 平均的な販売価格	値上がり率
抗アレルギー薬 フェキソフェナジン	アレグラ錠 60mg 56 錠　約 439 円	アレグラ FX 56 錠 3850 円	**8.7 倍**
保湿薬 ヘパリン類似物質	ヒルドイドクリーム 0.3% 100g　約 540 円	ビーソフテンクリーム 100g 1520 円	**2.8 倍**
胃薬・下剤 酸化マグネシウム	マグミット錠 330mg 100 錠　約 177 円	マグミット K 100 錠　1330 円	**7.5 倍**
去痰薬 カルボシステイン	ムコダイン錠 500mg 20 錠　約 62 円	ムコダイン去痰錠 Pro500 20 錠　2310 円	**38.5 倍**

医療用医薬品は公定価格であり国によって価格が定められていますが、これらのＯＴＣはあくまで現在の販売価格であり、メーカーによる値上がりが起これば、患者の自己負担額がさらに上がる可能性もあります。

薬の保険はずしは、何が問題なの？

現在国の医療費は増大する一方であり、社会保障費の削減はとても重要です。また、世界的に比較すると日本はＯＴＣとして販売されている成分が少ないということもあり、患者様のセルフメディケーションの推進のために、医療用医薬品をＯＴＣとして販売していくことも必要です。しかし、今回のこの提案については非常に大きな問題があります。

１）　慢性疾患や難病で薬を使わざるを得ない人に多大な負担を強いることになる

先ほどリストであげた薬はアレルギーの薬や保湿剤などであり、「命にかかわる薬ではない」と思われる方も少なくないかもしれません。

しかし、これらの薬を長期で使わざるを得ない人も多くいます。

例えば、皮膚に疾患のある患者様は長期にわたってアレルギーの薬や保湿剤を使う必要があります。保険はずしのリストには治療に必須のステロイド外用薬も含まれています。命に重大な影響を及ぼす可能性は低いですが、皮膚疾患は悪化すると労働や勉学などの社会的生活に多大な影響を与え、患者様自身の生活の質（quality of life）を下げてしまいます。

また、去痰剤のムコダインは慢性の呼吸器疾患や副鼻腔炎などでは何か月、何年にもわたって使われる場合もあります。

今回の保険はずしのリストについては、こうした個々の患者様の事情について全く考慮されていないと言わざるを得ません。

２）　「薬控え・受診控え」がすすみ、国民全体の健康が守られなくなる。

薬代の負担が増えると、自己判断で受診や服薬を遅らせてしまう患者様が増えると予想されます。もともと安い自己負担で国民全員が平等に医療を受けられ、健康な生活を送ることができるように国民皆保険制度は生まれました。ですが保険はずしが進むと、国民は健康保険料を払っているにも関わらず、安心して医療を受けることができなくなってしまいます。

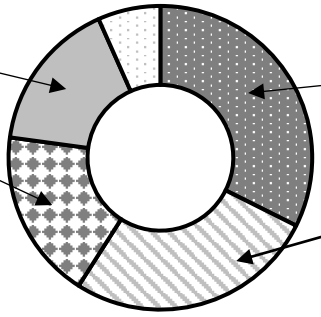
３）　ＯＴＣ類似薬の保険はずしは、果たして本当に有効な医療費の抑制になるのか？

ところで今、日本の医療用医薬品にかかっているお金はいまどのくらいなのでしょうか？

2024 年の医療用医薬品全体の費用は約１１兆４８００億円です。この中で売上のトップ１０は半分以上が抗がん剤ですが、上位１０種類の薬だけで１兆２０００億円、全売り上げの１割以上を占めています。

もうすこし詳しく見てみましょう。下のグラフは２０２１年の医薬品の新薬や先発品と、発売されて年数のたった薬や後発医薬品、つまりＯＴＣになる可能性のある薬の費用の内訳です。

発売されて年数のたった薬や後発医薬品（ジェネリック医薬品）の品目数は全ての医薬品のうち 6 割以上。薬の費用の合計は、全ての医薬品のうち３割強。



新薬と先発品の品目数は全ての医薬品のうち、１割以下。しかし薬の費用の合計は、全ての医薬品のうち６割以上を占めている！

比較的安価で国民に幅広く使われる薬の保険外しをすすめても、高額な新薬が発売されたり、処方箋で高価な新薬が処方され続ければ、結局医療費は増大していく、というジレンマを日本の医療は抱えています。

病気で働けなくなること、また慢性的な疾患で薬を飲み続けなければならなくなることは収入や社会的地位に関係なく、いつ誰にでもやってくる可能性があります。誰もが平等に安心して安価な医療を受けられる社会を維持するために政治がどうあるべきか、今こそ考えていく時でしょう。

文責：聞間（ことぶき薬局）参考文献：全国保険医新聞、大阪ﾌｧﾙﾏﾌﾟﾗﾝ、日本経済新聞、Answers News、財務省